

平成 26 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	京都大学大学院人間・環境学研究科	職名	博士後期課程	助成金額	32 万 円
氏名	宇佐美 達朗	メール アドレス	touri.g@gmail.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
哲学史的な文脈に照らしたジルベール・シモンドンの個体化論の研究					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>2015 年 2 月 22 日から同年 3 月 1 日にかけてフランス、パリへ調査のため渡航しました。</p> <p>今回の渡航のおもな目的はワークショップ「アトリエ・シモンドン」への参加にありました。「アトリエ・シモンドン」はフランスでのシモンドン研究を主導している Jean-Hugues Barthélémy 氏と Vincent Bontems 氏が組織、運営するワークショップで、年に数回おこなわれる会合（一回につきひとりの発表者が登壇）には多くの研究者が集まります。</p> <p>報告者が参加したワークショップは、2 月 24 日の 18 時から、リュクサンブール公園の東隣に位置するパリ国立高等鉱業学校（École des Mines）の V115-V116 教室で開催されたものです。このワークショップでは、宇宙物理学を専門とする Laurent Nottale 氏が「フラクタル性と時空間」（Fractalité et espace-temps）と題した発表をおこないました。シモンドン研究者でも哲学研究者でもない Nottale 氏をワークショップの講師に招いたのは、ほかならぬ Barthélémy、Bontems 両氏です。シモンドンはみずからの哲学の基礎に「関係の実在論」というものを据えたのですが、両氏の見立てによれば、Nottale 氏が自身の専門分野において提唱する理論は、シモンドンが哲学的に練り上げたこの「関係の実在論」をいわば科学の方面から補完し、理論化するものである、というわけです。Barthélémy、Bontems 両氏は「関係の実在論」をとりあげた共著論文でこのような可能性を示していたのですが、実際に Nottale 氏を招いてその可能性を検討してみようというのが、今回報告者が参加したワークショップの趣旨であると言えます。</p> <p>したがって Nottale 氏の講演はととても専門的なものであったのですが、会場からは宇宙物理学の専門家だけではなく、哲学を専門とする参加者からも質問が出るなど、ワークショップは活況を呈したまま閉会となりました。「関係の実在論」については報告者自身もより哲学史的な観点から検討をおこなっていたこともあり、Nottale 氏の講演内容をどこまで理解できたかは別にしても、シモンドン哲学の可能性を探るといふ点でとても興味深いワークショップとなりました。</p> <p>また、Nottale 氏の講演に参加できたことだけでなく、Barthélémy、Bontems 両氏とのつながりを得ることができたのは、今回の渡航の大きな成果でした。両氏はワークショップ「アトリエ・シモンドン」だけでなく、2009 年より『カイエ・シモンドン』を編集・刊行しており、両氏を中心にして研究者どうしのネットワークが形成されているからです。今後は、両氏に協力を仰ぎつつ、シモンドンの未刊行資料についても調査を進めていければと思います。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		